

「交通事故ゼロ社会の実現」に向け、普及活動を拡充

2030年ビジョンに掲げた「交通事故ゼロ社会の実現」に向け、2018年も「人から人への手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」を基本として、交通社会の変化やニーズに合わせ、活動を展開しました。



四輪販売会社での「みんなで安全運転行動診断」

高齢運転者の方へ日頃の運転行動や意識を振り返っていただくために

高齢運転者の事故の人的要因の1つとして、ブレーキとアクセルの踏み間違いなどの「運転操作不適」が最も多くなっています。このような高齢者の特性を踏まえ、来年からの普及をめざし、四輪販売会社のお客様を対象としたプログラム「みんなで安全運転行動診断」の開発に取り組みました。店頭でできる簡単な体験を通じて、自らの日頃の意識や行動を振り返りながら、事故を防ぐために必要な安全行動の重要性に気づいていただくことを目的としています。

先進の安全運転支援システムの正しい理解の普及のために

衝突軽減ブレーキや誤発進抑制機能といった安全運転支援システム「Honda SENSING」を普及させるためには、搭載率向上に加え、お客様に手渡して、その効果や限界について正しく理解していただくことが必要です。そのために、今年から、お客様と接する四輪販売会社のスタッフがシステムへの理解を深め、お客様向けの体感試乗を安全に運営するために必要なことを学ぶ研修を本格的に開始しました。研修を受講したスタッフにより、「Honda SENSING」の体感試乗が全国各地の四輪販売会社で実施されています。



幼児の保護者向けプログラム

保護者が自分の行動を振り返り何をすべきかに気づいていただく

幼児期は交通安全の基本を吸収する大切な時期であり、家庭の中で日常的に安全を考える機会をつくる必要があります。そこで、幼児の保護者の方々に対して、わが子の安全を守るために何をすべきかを考えていただくことを目的としたプログラムを開発しました。安全な歩き方、自転車利用時のヘルメット着用や自動車乗車時のチャイルドシート使用の重要性について、正しい使い方の理解とともに、危険な交通場面の映像や資料から日頃の行動を振り返っていただき、どうすれば事故を防げるかを保護者に問いかけ、気づきを促す内容となっています。

このほか、「SAFETY MAP」に表示されている急ブレーキ多発地点などの情報を、道路改善などに役立てていただくため、滋賀県警察本部と「交通事故防止対策の推進に関する協定」を締結しました。昨年、協定を締結した千葉県警察本部と警視庁では急ブレーキ多発地点の情報をもとに対策が検討され、道路改善が実施されています。

また、お身体の不自由な方の運転復帰に向けた取り組みでは、各地域で自立して活動していただくため、昨年の沖縄県に続き、今年は熊本県と鹿児島県において指定自動車教習所協会と作業療法士会との連携活動をサポートしました。

海外においては、Hondaの中国現地法人が中国国内の事故削減をめざし、自社内の二輪チーフインストラクターの養成を開始するなど、今年も様々な海外事業所の活動を支援しました。